

200

昭和23年3月中旬暴風高浪による被害と海況の變化

宇田道隆

Variation of the Oceanographical Conditions and Damages caused by Storms and High Waves on the Second Ten Days of March 1948.

By Michitaka Uda.

昭和23年3月中旬再度、15、16日を中心に連続して北東暴風が吹き續き、1月24日後に復舊した魚目方面の定置網を流失せしめた。

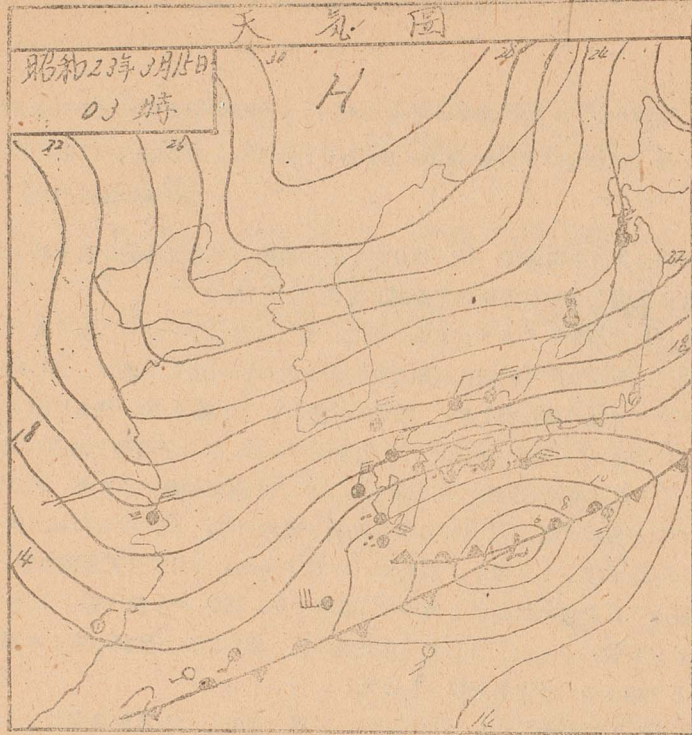
3月14日は朝からウネリが北から來た。當日は風はなかつた。同日晩から少し風が出て、翌15日明けの朝には船で沖に行かれぬ位時化して來た。其の時分から網がポツポツ裂け破れ出した。波高は平常より1m高く2m位と目測された。(波長は10m位と見積られる。)時化潮は認めぬ。15日午頃最大波高に達し2m~3mぐらゐを維持し雷鳴つて大雨あり、16日も雨が始終バラツキ、16日晚雨ひどかつたが風は衰え、17日には少し波弱り風風いた。18、19日には又吹いたが15—16日のときよりも弱く、波高は1m位と見た。(3月15日天氣圖参照)

今度の3月中旬の場合は1月24日の場合に比し風勢5m位も弱く(10~15)、波高も1m位小さい。しかし北~北東風の長く續いたため漁網の古くて弱つてゐたことと相まつて被害を大ならしめた。

1月24日の突風後はアミ (Euphausia) 大群が襲來して水面が眞赤になつたほどであり、2月初~22日迄日漁したが2月8日頃から一番イカが盛んに漁れ出し、イカはアミを餌として飽食した。

イカは2月一杯豊漁(1日1萬貫位)が、三月中旬3000—5000貫にへり、大風後1日400—500貫に位激減し、三月末には漁切れた。

ブリは寒中以來不漁に經過した。これは本年1、2月五島沿岸がずつと低温で適温を外れてをることと今冬氣象異變として冬季の常態である西高東低型の氣壓分布にならず北高南低型の氣壓分布が卓越して冬の漁によい西風が吹かず北偏暴風が多かつたのによる。こんどの暴風は16日通つた不連続線により、これが長續きし被害のあつたのは全く1月24日と同種の氣象型式によるもので、本冬の氣象異變である氣壓分布型式の變化に關連して起した災害である。



On
"Nis

The
(called "
grow, lig
Otoishi")
meteorolo

The
of fisherm

I 緒「西
に起る強
つて危険
昭和22年
なるもの
昭和22年
ものであ
のと考へ
的に知ら
れに現在

II こゝに
る。

- (1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
- 海象の異常